

富山経済同友会

会報

2022.11月
No. 310



第6回教育問題委員会（津軽藩ねぶた村）（9月29日）

CONTENTS

- 10月会員定例会 2
- 第30回経済同友会中央日本地区会議 2
- 第11回地域創生委員会 3
- 第2回委員長連絡会議 3
- 交流委員会（第2回、第3回） 4
- 第1回企画委員会 4
- ごきげんよう職場訪問（企業経営委員会）... 5
- 第7回文化スポーツ委員会（黒部ダム等視察）... 6
- 副業兼業人材活用セミナー（人財活躍委員会）... 7
- スケッチオーデション（人財活躍委員会）... 8
- 第6回教育問題委員会（青森・大阪視察）... 10
- 地域創生委員会（第12回、第13回：フィールドワーク）... 12
- 第9回企業経営委員会 16
- トピックス（フィールドワーク冊子、大学で活用）... 16
- 第83回あけぼの会ゴルフコンペ 17
- 「同友会の日」カターレ富山戦 17
- 課外授業講師派遣 18
- 教育講演会等講師派遣 20
- リレーエッセイ⑩（森 弘吉 氏） 21
- 活動報告 22
- 会員の入退会 24
- トピックス（富山大学データサイエンス寄附講座）... 26
- 慶事のお知らせ 27
- 今後の予定 27
- 事務所からのお知らせ 27
- わが青春の1枚（川合 声一 氏） 28

拡がる「データサイエンス活用」の実践 ～ 会員所属企業における取組（会員寄稿）～

地域創生委員会では「データサイエンス活用」を活動テーマのひとつとして設定し活動に取り組んでおり、会員所属企業においてもその実践が拡がりを見せつつある。今回は、富山大学データサイエンス寄附講座に参画されている(株)アイベック代表取締役 東出悦子氏より、事業概要などについて寄稿いただいた。



はじめに

富山大学では2021年4月からデータサイエンス教育と研究を目的としたデータサイエンス寄附講座を開設しました。アイベックは本寄附講座に初年度から参画しデータを提供しています。

取組概要

- ・学生は、企業が保持する生のデータを利用して統計学やデータサイエンスの基礎を学ぶ
- ・企業が保持する生のデータを活用して地域課題を解決する商品やサービスを大学と企業が連携して創出する

参画の目的

- ・企業が保持するデータを利活用して新規ビジネスを創出する
- ・学生と教授との接点を持ち、リクルート活動に活かす

背景

アイベックは、社会インフラの維持管理のために、橋梁やトンネル等の点検・調査を行っています。点検・調査はまるで人間の健康診断のように、定期的に行われます。しかし、社会インフラの老朽化は加速的に進み、5年ごとの定期点検では安全・安心が確保できなくなる可能性が高くなっています。この課題から、人間がウェアラブルウォッチをつけて、自身の健康状態を常時観測して未病を見つけるように、橋梁などの構造物もいたるところにセンサーをつけて常時観測することの必要

性を感じました。そこで2017年にIoT開発部を立ち上げ、構造物の性能低下や破壊などの事象を遅滞なく察知する仕組みを構築しました。

構造物の維持管理は様々なデータが必要になりますが、その中でも重要なものが、大型・小型車両の交通量です。ライフサイクルコストを考えた予防保全やSDGsを含めた都市計画のための基本データになります。そこでAIカメラを駆使した交通量の無人調査の仕組みを構築しました。将来的には、構造物のデータ、交通量のデータ、気象データなどを掛け合わせるにより、構造物の維持管理計画、都市計画などに寄与すると考えており、本寄附講座によって、これらのデータを活用する新規ビジネスの構築を目指しています。

効果

一年半で教授と学生たちのチームがこれらのデータを活用して学会で論文を複数発表しました。教授の指導による高度な分析もありますが、机上だけでは到達できない現場での汗をかく作業もあり、データサイエンスビジネスの泥臭い部分もよく理解できました。教授の発想や知識、学生たちの実行力で弊社だけではできない新しい挑戦ができています。

また教授と担当の学生たちが会社を訪問してくださり、社員との交流、業務の紹介などをする機会も頂きました。今後の新卒採用にも期待したいと思います。

● 富山大学 担当チームによる論文発表事例 (第19回 ITS シンポジウム2021)

AIカメラで取得した交通データを用いた道路インフラの荷重評価の検討
公営競技場の周辺道路における交通量と外部要因との関連性の考察
駅前駐輪場の混雑評価と外部要因との関係性の考察

(2022年度電気・情報関係学会北陸支部連合大会) 総合型都市公園における駐車場利用の実態調査